

平成二十六年事業報告及び決算報告

I 事業の実施状況

1. 博物館事業

(1) 展示事業

平成二十六年度刀剣博物館の展示活動及び入館者数は34頁表1の通りである。

(2) 鑑賞会事業

定例鑑賞会は八月と十二月を除く毎月第二土曜日に、当協会四階講堂において午後一時より開催した。鑑賞会には平均五九名の出席があり、刀剣の鑑賞並びに鑑定刀の入札及び当協会学芸員による解説を行った。

また定例鑑賞会にあわせて、平成二十四年九月から、刀剣を手にとって鑑賞したことのない初心者のために、刀剣の扱い方、鑑賞の方法を学ぶための「日本刀鑑賞マナー講座」を予約制で開催し、修了した者には修了証を発行しており、平成二十六年度の参加者は五五名であった。

その他協力団体が公益事業として開催する鑑賞会に、依頼により鑑定刀の貸与及び講師の派遣を行った。平成二十六年度は八一件の依頼があり、刀剣類五点を貸与し、鑑賞の指導を講師(学芸員)が行った。協力団体開催の鑑賞会の平均出席者は二八名であった。

(3) 作品発表会

①平成二十六年新作名刀展
作刀、刀身彫、彫金の職方の作品発表の場、及び多くの方に現代作家の技倆の高さをアピールすることを目的として、平成二十六年六月十日(火)から七月十三日(日)まで刀剣博物館で開催した。入場者は一、七一八人であった。

②第六七回刀剣研磨・外装技術発表会入賞作品展

研磨、白鞘、刀装、柄前、白銀の職方の作品発表の場、及び多くの方に現代作家の技倆の高さをアピールすることを目的として、平成二十六年十二月二日(火)から十二月十七日(水)まで刀剣博物館で開催した。入場者は七四一人であった。

(4) 古伝書等の公開

当協会の古伝書、一般刀剣関係書籍等を収蔵している資料室を、月曜日から金曜日の十時から十二時及び十三時から十六時まで一般の利用に供した。入室、閲覧は無料とし、コピーサービス(有料)にも応じた。今年度は六六件の利用があった。

(5) 刀剣相談

当協会に来館、または書面、電話での刀剣等に関するあらゆる相談を受付、刀剣類の文化財としての位置付けを認識してもらうと共に、刀剣類の知識として手入れ方法、保存方法を指導した。また銃砲刀剣類所持等取締法に基づく所轄警察署への届出等、関係法令の周知徹底を図り、各都道府県教育委員会への登録申請の相談も受け登録業務に協力した。

(6) 広報誌の発行

平成二十六年度は広報誌『刀剣美術』を六八七号から六九八号まで発行した。当協会編集委員及び編集担当職員が毎月編集会議を開催して内容を検討し、投稿された刀剣関係の論文、随想、資料の紹介等の掲載の他、定例鑑賞会の報告及び当協会や刀剣界の情報発信源として、また刀剣類の知識の向上を目的として会員への配布のみならず、刀剣博物館においても一般に向けて頒布している。

(7) ホームページ活用

『刀剣美術』誌と共に、当協会や刀剣界の情報発信源として活用しているほか、刀剣の知識が学べるように構成している。また、『刀剣美術』誌の記事の一部を英訳してホームページに載せ、海外の研究者、愛刀家等の要望に応えている。

2. 教育、講習事業

(1) 刀職技能訓練講習会

刀職者の技能向上とその普及を目的として、西日本で行っているこの講習会は、広報誌『刀剣美術』、当協会ホームページ、刀剣博物館掲示板で研修生を募集し、平成二十六年で二八回を数え、備前長船刀剣博物館において平成二

展示名	期間	一般	会員	招待	学生	中学生 以下	団体	ぐるっとバス 利用者	計（人）
祈りのかたち ～刀身彫刻と刀装具～ ※ 1	4.1～5.11	2,020	109	50	174	159	30	131	2,673
第23回 特別重要刀剣等 新指定展	5.13～6.8	1,068	111	205	81	83	50	145	1,743
平成26年 新作名刀展	6.10～7.13	1,137	120	84	151	86	26	114	1,718
大坂の刀剣	7.15～10.26	4,200	260	273	553	339	110	536	6,271
第60回 重要刀剣等新指定展	10.28～11.30	1,529	235	163	105	69	73	185	2,359
第67回 刀剣研磨・外装技術 発表会入賞作品展	12.2～12.17	471	32	48	66	21	29	74	741
館蔵名刀展同時開催 幕末金工の美※ 2	H27 1.6～3.31	4,476	233	167	658	275	380	500	6,689
合 計		14,901	1,100	990	1,788	1,032	698	1,685	22,194

表 1 ※ 1 祈りのかたち～刀身彫刻と刀装具～ は平成26年 1 月 7 日から開催
 ※ 2 館蔵名刀展 同時開催 幕末金工の美 は平成27年 4 月26日まで開催

- (3) この研修会は、文化庁の作刀承認を得ること及び若手刀匠の技量向上を目的として、広報誌『刀剣美術』、当協会ホームページ、刀剣博物館掲示板で研修生を募集し、平成二十六年九月二十三日(火)から九月二十六日(金)の四日間、島根県の日刀保日本刀鍛錬道場において開催した。
- 本研修会は三年で修了となるカリキュラムで行っているが、今回は第一期の二年目にあたり「素延・火造」をテーマとして、講師は刀匠で無鑑査認定者二
- (2) 十六年六月二十四日(火)から二十七日(金)の四日間開催した。
- 講習部門は「柄下地の部」と「刀装金具の部」の二部門で、「柄下地の部」は柄巻師の無鑑査認定者の講師により「蛟着せの要諦」を講習テーマとして実施し、受講者は六名であった。「刀装金具の部」は白銀師の無鑑査認定者の講師により「刀装金具の製作技術の総復習」を講習テーマとして実施、受講者は一〇名。最終日の閉講式において受講生に対し受講証書を交付した。
- 第四六回刀剣研磨・外装技術研修会
- 刀職者の技能向上とその普及を目的として行っているこの研修会は、広報誌『刀剣美術』、当協会ホームページ、刀剣博物館掲示板で研修生を募集し、当協会講堂において、平成二十六年八月二十五日(月)から八月三十日(土)までの六日間開催した。
- 研修部門は「研磨の部」「鍛冶研ぎの部」(前半三日間)及び外装の部として「白鞘の部」「柄前の部」「白銀の部」(後半三日間)であり、「研磨の部」の講師は研師の無鑑査認定者二名により、「下地研ぎ」を研修テーマとして実施し、特別研修生二名、研修生七名、聴講生二三名の参加があった。「鍛冶研ぎの部」の講師は刀匠の無鑑査認定者により「鍛冶研ぎの基礎技法」を研修テーマとして実施し、特別研修生一名、研修生三名、聴講生二名の参加があった。「白鞘の部」の講師は鞘師の無鑑査認定者により、「掻き入れの基礎技法と道具の修理」を研修テーマとして実施し、研修生一名、聴講生六名の参加があった。「柄前の部」の講師は柄巻師の無鑑査認定者により「常組・糸巻の要諦」を研修テーマとして実施し、研修生五名、聴講生一〇名の参加があった。「白銀の部」の講師は鍔師の無鑑査認定者により「肉置き及び金着せの基礎技法」を研修テーマとして実施し、特別研修生一名、研修生二名、聴講生一〇名の参加があった。
- また、三年間の研修終了者は研磨の部の特別研修生一名、研磨の部の研修生二名、鍛冶研ぎの部の研修生一名、柄前の部の研修生一名であり、修了証書を交付し、その他研修生、聴講生にそれぞれ研修証書、聴講証書を交付した。
- 第三二回作刀技術実地研修会

名により実施し、特別研修生二名、研修生三名、聴講生五名の参加があった。
この研修ではサブテーマとして「各種玉鋼の効果的使用法」の研修も行った。

(4) 村下養成研修会

たたら操業の日程にあわせ「日刀保たたら」において、日刀保たたら村下を講師に村下後継者の養成を行った。養成員一〇名の参加があった。

(5) 博物館等職員対象刀剣類取扱講習会

本講習会は、美術館・博物館・資料館の学芸担当者等を対象とした文化財としての刀剣類を正しく保管・展示するために必要な知識及び技能を習得することを目的に、東京都教育委員会の共催を得て平成二十六年十月二十五日(土)、十月二十六日(日)の二日間の日程で開催した。両日は連続したカリキュラムとなっており、一日目は、「銃刀法概論」、「日本刀概論Ⅰ・Ⅱ」、「日本刀の取扱いと保管方法」の講義を、二日目は、実技として「展示指導」の講義を行った。両日で延三十三人の参加があった。

3. コンクール事業

(1) 平成二十六年新作名刀展

現代作家の技術の向上及び普及を目的として、作刀の部、刀身彫の部、彫金の部の三部門について、広報誌『刀剣美術』、協会ホームページ、刀剣博物館掲示板で公募し、平成二十六年四月一日(火)から三日(木)の間受付をした。申請された作刀の部二十九点、刀身彫の部三点、彫金の部一点五五点について平成二十六年四月十五日(火)審査会を開催し、その結果は、特賞は作刀の部一点、優秀賞は作刀の部三点、彫金の部三点、努力賞は作刀の部一点五五点、刀身彫の部三点、彫金の部二点、入選は作刀の部一点〇点、彫金の部一点〇点となった。無鑑査による出品は、作刀の部九点、彫金の部四点であった。

平成二十六年六月十日(火)午後一時から、当協会講堂において表彰式を執り行い、入賞者に賞金、賞状、副賞(カップ及び作刀の部門出品者には玉鋼二〇kg、または一〇kg)、入選者に入選証書をそれぞれ交付した。各部門について審査員の代表が審査員講評を行った。

新作名刀展では開催のチラシを各方面に配布し、また入賞作品の写真を掲載した入賞作品集を制作し、一部一、〇〇〇円で頒布した。展示は平成二十六年六月十日(火)から七月十三日(日)まで刀剣博物館で開催し、その後は八月一日(金)から八月二十日(水)まで山形県の致道博物館、九月十三日(土)から九月二十八日(日)までは埼玉県川越市立博物館において巡回展を行った。

(2) 第六七回刀剣研磨・外装技術発表会

現代作家の技術の向上と普及を目的として、研磨の部、外装の部として白鞘の部、刀装の部、柄前の部、白銀の部について、広報誌『刀剣美術』、協会ホームページ、刀剣博物館掲示板で公募し、平成二十六年十一月四日(火)から六日(木)の間受付をした。研磨の部は「鑄造の部」と「平造の部」に分け、同時に二部門への出品ができる。申請された研磨(鑄造)の部四九点、研磨(平造)の部一九点、白鞘の部一点四、刀装の部二点、柄前の部一点八、白銀の部八点について、十一月十四日(金)当協会講堂において審査会を開催し、審査の結果、優秀賞は研磨(鑄造)の部一点、白鞘の部一点、刀装の部一点、白銀の部一点、努力賞は研磨(鑄造)の部二点、研磨(平造)の部一点、白鞘の部三点、刀装の部一点、柄前の部五、白銀の部一点、入選は研磨(鑄造)の部三、五、研磨(平造)の部一七点、白鞘の部九点、柄前の部一、白銀の部六、落選は研磨(平造)の部一点、白鞘の部一点、柄前の部二点であった。無鑑査による出品は研磨の部九点、柄前の部二点、白銀の部一点であった。
十一月二十八日(金)午後一時より、当協会講堂において表彰式を執り行い、入賞者に賞金副賞(カップ)、賞状を、入選者に入選証書をそれぞれ交付した。各部門について審査員の代表が審査員講評を行った。
展示は十二月二日(火)から十七日(水)まで刀剣博物館において開催した。

4. 検定・資料収集事業

(1) 刀剣類の保存・特別保存審査

八月と九月を除く毎月、保存及び特別保存の審査申請を受付、審査会を開催した。奇数月の月初めの連続する三日間は刀剣の受付を、偶数月の月初めの連続する三日間は刀装・刀装具の受付をした。

区分		受付点数	合格点数
保存	刀剣	六〇八六	四〇六八
	刀装	二八三	一八〇
	刀装具	三八五六	二七〇九
特別保存	刀剣	二〇一三	一三六〇
	刀装	一一三〇	九〇
	刀装具	八三一	六七四

受付点数により審査会を複数回設け、審査は理事会の決議を経て会長が指名または委嘱した審査員により、審査規程に則り厳正に審査を行い、合格したものの

には鑑定書を発行した。受付点数、合格点数は右のとおりであった。

(2) 刀剣類の重要・特別重要審査

第二三回特別重要刀剣等審査は平成二十六年四月七日(月)から九日(水)の三日間で申請を受付した。審査は理事会の議を経て会長が指名または委嘱した審査員により、審査規程に則り厳正に第一次審査、第二次審査を行った。五月十三日(火)から六月八日(日)まで刀剣博物館において指定品の展示を行い、指定品を図譜として纏め、頒布した。

また、第六〇回重要刀剣等審査は九月一日(月)から三日(水)までの三日間で受付した。審査は理事会の議を経て会長が指名または委嘱した審査員により、審査規程に則り厳正に第一次審査、第二次審査を行った。十月二十八日(火)から十一月三十日(日)まで刀剣博物館において指定品の展示を行い、指定品の指定書及び指定品を纏めた図譜を現在作成中である。受付点数、合格点数はそれぞれ次のとおりであった。

区 分

受付点数 合格点数

第二三回特別重要刀剣

二二四

四〇

刀装

一

〇

刀装具

二〇

五

第六〇回重要刀剣

六七二

一二七

刀装

五二

一二

刀装具

二五九

三九

(3) 資料収集

保存・特別保存、重要な各審査の申請物件すべての調書を作成し、合格したもののについては写真もしくは押形と共に保管し、データベースで管理した。また過去の受付物件も順次データ化を進めている。

5. 資格付与事業

(1) 無鑑査の選任

当協会の無鑑査選任規程第二条により無鑑査基準に達した者一名を平成二十六年五月十四日付で無鑑査に認定した。

なお、今年度末現在無鑑査認定者は作刀の部が一六名、刀身彫の部が一名、彫金の部が四名、研磨の部が一八名、外装の部が一〇名となっている。

(2) 伝位授与

伝位審議会を平成二十六年六月、九月、十二月及び平成二十七年三月の四回開

催し、初伝位一名、中伝位一〇名の合計二一名の合格を認めるとともに、理事会等の決定により、それぞれ伝位証書を授与した。

(3) 刀剣等指導員・刀剣等指導補助員登録

刀剣等指導員規程による指導員登録の申請が一三名より提出され、いずれも刀剣等指導員規程第二条の資格を有しているため理事会等の決定により証明書が発行された。刀剣等指導員の資格要件に中伝位以上を授与された者と規定されていることから、伝位授与と連動して指導員として刀剣文化の普及に活躍する人材を育てることを目的としている。

また、初伝位を授与された者を対象とする刀剣等指導補助員の申請も一名あり、指導補助員としての資格を有しているため証明書が発行された。

6. たたら製鉄事業

たたら操業を平成二十七年一月二十一日(水)から二月七日(土)まで三代実施した。期間中は村下養成研修会とし、日刀保たたら村下を講師に村下後継者の養成を行った。これに先立ち、操業開始前の準備として数日前より釜土の混練や本床への火入れなどを行った。炉床の状態を整え、本操業に臨み、伝統技術の保存・伝承に努めた。

操業自体は下準備から始まり、釜作り・三昼夜操業・釜壊しを単位つまり一代と数えるが、釜作り以降の作業を計三回行い、一回平均約二・五トンの鋸を生産した。また操業終了後からは、生産された鋸を破碎し、翌年度以降の玉鋼配布準備のため各等級毎に選別する作業を行った。

操業期間外では、日刀保たたら村下の指導のもと、ほぼ通年で以下の作業を行っている。①三代分のたたら炭の生産(約七・五トン)、②粘土の選別と確保、③注文に応じての玉鋼発送作業、④その他適宜発生する業務。

さらに、生産された玉鋼について刀匠に頒布の文書を郵送した。

7. 刀剣文化振興の助成事業

当協会の協力団体は国内に八二団体、海外に三三団体設立されており、全国の刀剣普及活動の拠点である。平成二十六年度は二二団体が新たに設立された。

〈国内 八二団体〉

日刀保根室支部 日刀保帯広支部 日刀保札幌支部 日刀保旭川支部

日刀保青森県支部 日刀保八戸支部 日刀保岩手県支部

日刀保秋田県支部 日刀保羽後秋田支部 日刀保山形県庄内支部

日刀保山形支部 日刀保米沢支部 宮城県美術刀剣保存協会
日刀保会津支部 日刀保いわき支部
日刀保福島県南支部 日刀保福島県南支部

表2

	国 内					海 外		計
会員種別	普通会員	学生会員	維持会員	優遇会員	終身会員	普通会員	終身会員	
平成27年3月 末日	4,136人	21人	7人	14人	62人	258人	10人	4,508人
昨年度との差	-121人	0人	0人	-5人	-3人	-8人	0人	-137人

日刀保福島支部 新誠会 日刀保高崎支部
日刀保茨城県支部 日刀保茨城県西北支部
土浦亀城刀剣会 日刀保栃木県支部
埼玉県刀剣保存協議会 日刀保千葉県東部支部
日刀保千葉県支部 日刀保東京都支部
日刀保東京多摩支部 日刀保横浜支部
鎌倉刀剣会 日刀保湘南支部 日刀保山梨県支部
日刀保新潟支部 日刀保長岡支部
日刀保富山県支部 日刀保石川県支部
日刀保若狭支部 日刀保福井支部
日刀保長野県南支部 日刀保長野県北支部
日刀保長野県東信支部 日刀保静岡岡支部
日刀保静岡岡支部 日刀保三河支部
日刀保名古屋支部 岡崎刀剣鑑賞会
日刀保岐阜県支部 日刀保三重県支部
日刀保京都府支部 日刀保大阪支部
日刀保兵庫支部 姫路しらさぎ刀剣会
日刀保奈良県支部 日刀保和歌山支部
日刀保岡山支部 日刀保山口支部
日刀保広島支部 日刀保島根支部
日刀保鳥取支部 日刀保香川支部
日刀保四国讃岐支部 日刀保香川西支部
日刀保愛媛支部 日刀保徳島支部
日刀保高知支部 日刀保北九州支部
日刀保八幡支部 日刀保博多支部
福岡美術刀剣振興会 福岡県文化財保存協会
日刀保筑後支部 日刀保熊本支部
日刀保熊本中央支部 日刀保宮崎支部
日刀保延岡支部 日刀保長崎支部
日刀保佐賀支部 葉隠刀友会 日刀保大分支部
日刀保大分県北支部 日刀保鹿児島支部

Ⅱ 海外 三団体

ヨーロッパ支部 アメリカ支部 ロシア支部

(1) 協力団体で開催する鑑賞会への講師の派遣及び鑑賞刀剣の貸与

1の(2)鑑賞会事業参照。

(2) 協力団体で開催する鑑賞会への鑑賞刀剣のみの貸与は、平成二十六年度は一四件。

(3) 協力団体で主催する刀剣類の展示会の後援

協力団体で主催する刀剣類の展示会の助成及び共催事業として、平成二十六年度は以下の二件があった。

・日刀保四国讃岐支部「さむらいの魂日本刀の世界展」
・埼玉県刀剣保存協議会「新作名刀展」

管理部門

1. 会員の状況(表2の通り)

2. 職員に関する事項

職員数計二六名 男子 一七名(前期末一名減)
女子 九名(前期末一名増)

平均年齢 男子五三歳 女子五五歳

3. 役員会等に関する事項

(1) 平成二十六年理事会(定款第四四条による理事会)

日時 平成二十六年四月二十二日(火)

議題 公益財団法人日本美術刀剣保存協会刀剣等指導員規程第三条第二項に

よる刀剣等指導員登録の申請をした三名の承認について

(2) 平成二十六年第一回理事会

日時 平成二十六年五月十四日(水)午後一時から二時

議題 1 平成二十五年事業報告(案)及び決算(案)の承認について

2 無鑑査選任規程第三条による無鑑査認定について

3 刀剣博物館の建設について

(3) 平成二十六年定時評議員会

日時 平成二十六年五月十四日(水)午後二時から三時十五分

議題 1 平成二十五年事業報告(案)及び決算(案)の承認について

2 刀剣博物館の建設について

(4) 平成二十六年理事会(定款第四四条による理事会)

日時 平成二十六年六月十三日(金)
議題 1 定款第四九条に基づく委員会の設置について
2 公益事業推進委員会規則の制定について

(5) 平成二十六年度理事会(定款第四四条による理事会)
日時 平成二十六年七月十四日(月)
議題 3 伝位授与規程第三条第一項に基づく伝位授与について
1 公益事業推進委員会規則の一部改正について
2 公益事業推進委員会委員の決定について

(6) 平成二十六年度理事会(定款第四四条による理事会)
日時 平成二十六年七月二十五日(金)
議題 3 刀剣等指導員登録の申請をした三名の登録の承認について
1 伝位授与規程の一部改正について
2 刀剣等指導員規程の一部改正について
3 刀剣等指導補助員規程の一部改正について

(7) 平成二十六年度理事会(定款第四四条による理事会)
日時 平成二十六年七月三十一日(木)
議題 臨時評議員会の招集の決定
平成二十六年度臨時理事会
日時 平成二十六年八月十九日(火)午後一時から二時
議題 基本財産の処分の承認

(8) 平成二十六年度臨時評議員
日時 平成二十六年八月十九日(火)午後二時三十分から三時三十分
議題 基本財産の処分の承認
平成二十六年度臨時評議員
日時 平成二十六年八月十九日(火)午後二時三十分から三時三十分
議題 基本財産の処分の承認

(9) 平成二十六年度理事会(定款第四四条による理事会)
日時 平成二十六年九月十九日(金)
議題 名譽会員の決定
平成二十六年度理事会(定款第四四条による理事会)
日時 平成二十六年十一月十日(月)
議題 1 株式会社横総合計画事務所との建築設計業務委託契約の承認
2 刀剣博物館建設準備委員会の設置の承認

(10) 平成二十六年度理事会(定款第四四条による理事会)
日時 平成二十六年十一月十日(月)
議題 2 刀剣博物館建設準備委員会の設置の承認
平成二十六年度理事会(定款第四四条による理事会)
日時 平成二十七年一月十六日(金)
議題 日立金属株式会社からの寄付金の受領について

(11) 平成二十六年度臨時理事会
日時 平成二十七年二月十日(火)午後二時から三時
議題 新刀剣博物館建築工事施工予定者選定について
平成二十六年度第二回理事会
日時 平成二十七年三月十九日(木)午後二時から三時
議題 1 平成二十七年事業計画及び予算(案)について
2 特定資産取得資金の積立について
3 事務局長事務取扱の選任について
4 規程の一部改正について
5 学芸部組織改編について
6 平成二十七年年度審査員の委嘱について
7 伝位審議会委員の委嘱について

Ⅲ その他

(1) 外部文化団体からの出陳要請により協会所蔵文化財のほか、玉鋼、砂鉄や、たたら製鉄の工程などのパネルを貸与した。また各文化団体からの要請により所蔵文化財の画像を貸与した。

(2) 刀剣博物館は海外からの来館者がさらに増加傾向にあり、また協会主催の研究修会に参加希望も多く、そういったニーズにできる限り柔軟に対応して各種事業に海外居住者への利用を促した。

(3) 当協会は、昭和二十三年に東京国立博物館内において設立され、昭和四十三年二月に現在の所在地に会館を建設して移転した。この建物は既に四十六年経過しており、現在までにあらゆる補修はしているが老朽化が激しく、また耐震性にも懸念があるため、移転・建替・改修の三案で検討を行ってきたところ、移転案を採用、計画を進め、墨田区が誘致していた旧安田庭園内両国公会堂跡地活用事業候補者の決定を受けた。現在、平成二十九年春の竣工に向け、墨田区をはじめ関係各所と協議中である。

平成二十六年事業報告には、定款第一一条に規定する附属明細書は「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しない。

平成二十七年五月

貸 借 対 照 表

平成27年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当期末	前年度	増 減
I. 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現金	97,468,651	115,089,131	△ 17,620,480
未収金	19,419,826	58,980,614	△ 39,560,788
販売用書	18,989,513	16,261,736	2,727,777
製原材	73,095,863	65,223,312	7,872,551
前払金	3,108,616	2,164,092	944,524
流動資産合計	0	48,580	△ 48,580
2. 固 定 資 産	212,082,469	257,767,465	△ 45,684,996
(1) 基 本 財 産			
土地建物	53,660,000	53,660,000	0
預入金	39,106,780	40,915,443	△ 1,808,663
投資有価証券	295,403,752	19,242,109	276,161,643
刀剣及び小道具	579,356,792	882,212,796	△ 302,856,004
基本財産合計	715,250,000	715,250,000	0
(2) 特 定 資 産	1,682,777,324	1,711,280,348	△ 28,503,024
退職給付引当資産	49,667,566	58,696,351	△ 9,028,785
減価償却引当資産	119,476,655	119,476,655	0
刀剣学奨学積立資産	4,863,763	4,863,763	0
新刀剣博物館建設積立資産	120,000,000	0	120,000,000
特定資産合計	294,007,984	183,036,769	110,971,215
(3) そ の 他 固 定 資 産			
建物付属設備	27,848,939	18,272,429	9,576,510
構築物	3,935,086	4,809,190	△ 874,104
機械装置	5,903,020	6,134,506	△ 231,486
什器備品	12,371,372	342,547	12,028,825
土地	2,199,274	506,616	1,692,658
刀剣及び小道具	300,000	300,000	0
研修用教材	158,826,809	158,826,809	0
絵画	15,367,000	15,367,000	0
図書及び押型	5,800,000	5,800,000	0
ソフトラウエ	8,960,000	8,960,000	0
建設仮勘定	139,650	4,674,568	△ 4,534,918
固定資産合計	26,696,800	0	26,696,800
資産合計	268,347,950	223,993,665	44,354,285
2,245,133,258	2,118,310,782	126,822,476	
2,457,215,727	2,376,078,247	81,137,480	
II. 負 債 の 部			
1. 流 動 負 債			
未払金	8,087,390	3,638,179	4,449,211
前受金	27,304,334	23,737,520	3,566,814
預り金	2,927,549	3,796,078	△ 868,529
賞与引当金	8,636,597	7,472,088	1,164,509
流動負債合計	46,955,870	38,643,865	8,312,005
2. 固 定 負 債			
退職給付引当金	96,412,740	93,536,678	2,876,062
固定負債合計	96,412,740	93,536,678	2,876,062
負債合計	143,368,610	132,180,543	11,188,067
III. 正 味 財 産 の 部			
1. 指 定 正 味 財 産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一 般 正 味 財 産			
(うち基本財産への充当額)	2,313,847,117	2,243,897,704	69,949,413
(うち特定資産への充当額)	(1,682,777,324)	(1,711,280,348)	(△ 28,503,024)
(244,340,418)	(124,340,418)	(120,000,000)	
正味財産合計	2,313,847,117	2,243,897,704	69,949,413
負債及び正味財産合計	2,457,215,727	2,376,078,247	81,137,480

正味財産増減計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	6,641,586	7,156,553	△ 514,967
基本財産利息収益	6,641,586	39,087	6,602,499
基本財産配当金収益	0	7,117,466	△ 7,117,466
特定資産運用益	856,930	860,360	△ 3,430
特定資産受取利息	856,930	860,360	△ 3,430
特定資産受取配当金	0	0	0
受取会費及び入会金	47,509,403	52,353,075	△ 4,843,672
会費及び入会金	47,509,403	52,353,075	△ 4,843,672
事業収益	321,446,910	321,576,930	△ 130,020
刀剣博物館入館料収益	10,327,556	7,663,795	2,663,761
保存刀剣等鑑定会受取会費	201,281,000	229,437,130	△ 28,156,130
重要刀剣等指定会受取会費	72,195,000	37,933,000	34,262,000
鑑賞会受取会費	3,106,800	2,694,600	412,200
書籍売上高	5,388,035	4,884,708	503,327
出版売上高	5,154,269	3,658,036	1,496,233
広告料収益	11,456,520	12,221,400	△ 764,880
伝位登録料収益	742,000	1,066,000	△ 324,000
たたら事業収益	11,795,730	13,988,261	△ 2,192,531
全国大会収益	0	8,030,000	△ 8,030,000
受取補助金等	0	2,650,000	△ 2,650,000
受取国庫補助金	0	2,650,000	△ 2,650,000
受取寄付金	27,000,000	0	27,000,000
一般寄付金	27,000,000	0	27,000,000
雑収益	3,669,024	2,638,479	1,030,545
受取利息	30,017	17,274	12,743
雑収益	3,639,007	2,621,205	1,017,802
諸引当金戻入	7,472,088	1,878,325	5,593,763
賞与引当金戻入	7,472,088	1,878,325	5,593,763
経常収益計	414,595,941	389,113,722	25,482,219
(2) 経常費用			0
事業費	330,166,680	314,622,603	15,544,077
役員報酬	5,792,000	3,745,500	2,046,500
給料手当	124,214,588	127,733,065	△ 3,518,477
福利厚生費	20,558,091	20,433,859	124,232
賃金	30,763,425	27,760,837	3,002,588
旅費交通費	12,071,633	25,822,628	△ 13,750,995
通信搬送費	10,104,658	10,744,533	△ 639,875
消耗品費	3,644,083	3,382,691	261,392
印刷製本費	36,540,801	30,008,314	6,532,487
光熱水料費	3,436,712	3,548,936	△ 112,224
修繕費	9,472,774	5,817,959	3,654,815
賃借料	11,495,710	11,959,676	△ 463,966
租税公課	14,818,050	10,105,500	4,712,550
助成費	6,211,600	7,138,400	△ 926,800
支払保険料	331,507	1,330,758	△ 999,251
書籍仕入費	1,771,890	2,359,124	△ 587,234

玉鋼材料費	11,801,300	2,195,763	9,605,537
他勘定振替	△ 621,179	0	△ 621,179
支払負担金	161,216	71,343	89,873
渉外費	2,988,710	2,670,061	318,649
雑費	1,384,094	2,361,459	△ 977,365
減価却費	10,472,253	10,155,883	316,370
退職給付費用	12,752,764	5,276,314	7,476,450

(単位：円)

科 目		前年度	増 減
管 理 費	14,479,848	15,038,889	△ 559,041
役員報酬	1,888,000	1,214,500	673,500
給料手当	2,664,460	2,739,933	△ 75,473
福利厚生費	1,059,250	1,103,088	△ 43,838
旅費交通費	542,404	1,160,265	△ 617,861
通信運搬費	554,264	589,363	△ 35,099
消耗品費	321,187	298,148	23,039
光熱水料費	274,640	283,609	△ 8,969
修繕費	1,075,972	660,838	415,134
賃借料	404,611	420,942	△ 16,331
支払保険料	198,904	798,455	△ 599,551
顧問料	3,345,600	3,968,250	△ 622,650
支払負担金	71,084	31,457	39,627
渉外費	607,812	543,009	64,803
雑費	26,807	45,738	△ 18,931
減価却費	678,925	779,761	△ 100,836
退職給付費用	657,083	271,861	385,222
会議費	108,845	129,672	△ 20,827
経常費用計	344,646,528	329,661,492	14,985,036
当期経常増減額	69,949,413	59,452,230	10,497,183
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
投資有価証券評価損	0	149,178	△ 149,178
経常外費用計	0	149,178	△ 149,178
当期経常外増減額	0	△ 149,178	149,178
他・会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	69,949,413	59,303,052	10,646,361
一般正味財産期首残高	2,243,897,704	2,184,594,652	59,303,052
一般正味財産期末残高	2,313,847,117	2,243,897,704	69,949,413
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高			
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	2,313,847,117	2,243,897,704	69,949,413

財 産 目 録

平成27年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金		運転資金として	2,070,901
	普通預金	みずほ銀行新宿新都心支店 他	運転資金として	86,759,741
	郵便貯金	代々木郵便局振替口座 他	運転資金として	8,638,009
	未収金		審査事業における審査料 他	19,419,826
	販売用書籍	「昭和大名刀図譜」他	出版書籍在庫	18,989,513
	製品	島根県仁多郡奥出雲町	玉鋼在庫	73,095,863
	原材料	島根県仁多郡奥出雲町 砂鉄、木炭	玉鋼材料在庫	3,108,616
流 動 資 産 合 計				212,082,469
(固定資産) 基本財産	土地	東京都渋谷区代々木4-25-10	(供用財産) うち、公益目的保有財産83% うち、管理目的の財源として使用する財産17%	53,660,000
	建物	東京都渋谷区代々木4-25-10 刀 剣博物館4階建他	(供用財産) うち、公益目的保有財産86.4% うち、管理目的の財源として使用する財産13.6%	39,106,780
	普通預金	三井住友信託銀行新宿支店	公益目的保有財産であり、運用益 を公益目的事業の財源として使用 している。	6,161,643
	定期預金	みずほ銀行新宿新都心支店 他		289,242,109
	投資有価証券	国債 地方債	公益目的保有財産であり、運用益 を公益目的事業の財源として使用 している。	280,173,396 299,183,396
	刀剣及び小道具	日本刀 他	公益目的保有財産であり、協会の 事業の用に供している不可欠特定 財産である。	715,250,000
	基 本 財 産 合 計			1,682,777,324

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
特定資産	退職給付引当資産	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店	職員16名に対する退職金の支払いに備えた積立資産である。	8,875,496
		定期預金みずほ銀行新宿新都心支店 他		40,792,070
	減価償却引当資産	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店	将来の固定資産への投資のための引当資産である。	12,989,532
		定期預金三井住友信託銀行新宿支店		10,000,000
		国債		96,487,123
	刀剣学奨学積立資産	定期預金みずほ銀行新宿新都心支店		4,863,763
	新刀剣博物館建設資産	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店		120,000,000
特 定 資 産 合 計				294,007,984
その他の固定資産	建物	島根県仁多郡奥出雲町	(供用財産) うち、公益目的保有財産99.4% うち、管理目的の財源として使用する財産0.6%	27,848,939
	建物付属設備	渋谷区代々木4-25-10	(供用財産) うち、公益目的保有財産88.3% うち、管理目的の財源として使用する財産11.7%	3,935,086
	構築物	渋谷区代々木4-25-10 石碑 他	(供用財産) うち、公益目的保有財産84.5% うち、管理目的の財源として使用する財産15.5%	5,903,020
	機械装置	島根県仁多郡奥出雲町 たたら炉 他	公益目的保有財産である。	12,371,372
	什器備品	渋谷区代々木4-25-10	(供用財産) うち、公益目的保有財産93.7% うち、管理目的の財源として使用する財産6.3%	2,199,274
	土地	長野県上田市		300,000
	刀剣及び小道具	渋谷区代々木4-25-10 日本刀 他	公益目的保有財産である。	158,826,809
	研修用教材	渋谷区代々木4-25-10 刀剣及び小道具	公益目的保有財産である。	15,367,000
	絵画	渋谷区代々木4-25-10 日本画 他	公益目的保有財産である。	5,800,000
	図書及び押型	渋谷区代々木4-25-10 網屋押型 他	公益目的保有財産である。	8,960,000
	ソフトウェア	渋谷区代々木4-25-10	(供用財産) うち、公益目的保有財産95.1% うち、管理目的の財源として使用する財産4.9%	139,650
	建設仮勘定		公益目的保有財産（新博物館建設の一部支払分）である。	26,696,800
そ の 他 固 定 資 産 合 計				268,347,950
固 定 資 産 合 計				2,245,133,258
資 産 合 計				2,457,215,727

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)	未払金		当期消費税確定額 他	8,087,390
	前受金	個人会員 他	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する会費 他	27,304,334
	預り金		社会保険料 他	2,927,549
	賞与引当金	職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の賞与の引当金である。	8,636,597
流 動 負 債 合 計				46,955,870
(固定負債)	退職給付引当金	職員	職員19名に対する退職金の支払いに備えたものである。	96,412,740
固 定 負 債 合 計				96,412,740
負 債 合 計				143,368,610
正 味 財 産				2,313,847,117

監 査 報 告 書

公益財団法人 日本美術刀剣保存協会
会 長 小 野 裕 殿

平成27年 5月15日

公益財団法人 日本美術刀剣保存協会
監 事 杉山 清
監 事 小池 哲

公益財団法人日本美術刀剣保存協会における平成26年 4月 1日から平成27年 3月31日までの監査の方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監事は、理事会などの会議に出席し、理事及び担当者からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告等及び会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、計算書類（貸借対照表・正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について監査いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 1) 事業報告は、法令及び公益財団法人日本美術刀剣保存協会定款に従い、法人の状況を正しく表示しているものと認めます。
- 2) 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは公益財団法人日本美術刀剣保存協会定款に違反する事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況を正確に示しているものと認めます。